

風土や地域・環境を十分に理解した計画とします

■ 厳肅性と清楚な佇まいを併せ持つ斎場づくり

・故人の尊厳を尊重した品位ある施設デザインであるとともに、華美を避け、高級な建材に頼らない清楚なデザインとします。

■ 心ゆくまで故人を偲ぶことができる斎場づくり

・会葬者が心ゆくまで故人を見送ることができ、落ち着いて偲ぶことができるプライバシーの高い計画とします。

■ 地域に受け入れられる斎場づくり

・現況の周辺環境や景観の調和のみでなく、将来の市街地化も予測し、近隣及び敷地内の環境や景観が持続できる計画とします。

■ 会葬者に負担のない斎場づくり

・誰もが負担なく、安心して利用できるために、徹底したバリアフリー・ユニバーサルデザインを行います。また、災害時にも建物が損傷なく、運用可能な安全な計画とします。

■ 近接する住宅街に配慮した配置計画

・敷地周囲は、多くの既存林を活かした緩衝緑地帯として計画し、周辺の住宅環境を守ります。

■ 静かに佇む新斎場

・新斎場は火葬棟と待合棟の分棟配置とし、それぞれコンパクトな平面形と高さを抑えた計画により、緩衝緑地帯による視線の遮蔽とともに周辺への影響を最小限にします。

・各建物は周辺の民家に同調したこう配屋根による形状とします。素材感があり色彩を抑えた外壁、分節された屋根や、庇と軒の深い陰影により、別れの場に相応しい品格と落ち着いた外観とします。

■ 風土に根差した屋敷林の風景

・敷地内は、会葬者が構内全体を把握しやすい開放性のある外構計画とし、「屋敷林」に囲まれた農家を彷彿とするふるさとの風景を創ります。

・植栽は、地域に適した樹種を選択するとともに、四季によって変化する草木を配し、お別れの時を記憶に刻める計画とします。

■ 木のぬくもりを活かした斎場

・公共建築物など木材利用促進法、及び埼玉県による産材利用促進の方針に則り、本施設の地場産による木材の積極的活用により、緑の中に溶け込む景観をつくります。

豊かな自然と街が織りなす田園風景に調和し、樹林に包まれた静謐な葬送の地を提案します

